

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	観光総合知識A		
必修選択	選択	(学則表記)	観光総合知識A		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	観光学基礎 観光に関する14章			出版社	JTB総研

科目の基礎情報②

授業のねらい	観光とは何か、観光産業とはどのような産業、観光ビジネスの特性は何かという基礎の理解並びに実際に起きていること今後起こりうる課題や事象を考え、今後観光市場がどのように動くのかを理解する。		
到達目標	授業や自己で学んだことを踏まえ、日本の観光産業における課題を見つけ解決策を見出すことができる。		
評価基準	小テスト50% 授業態度30% 期末テスト20%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	国内旅行業務取扱管理者資格		
関連科目	国内旅行業務取扱管理者資格		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	吉川 温子	実務経験	○
実務内容	県内旅行会社にて勤務経験。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	現代社会と観光の関わり	現代における観光の果たす役割と重要性について
2	観光を学ぶと見えてくるものそして学ぶ意義	観光に関わる人々、観光で得られるもの、観光を充実させるために必要なこと
3	観光が企業や人にもたらす効果	観光が人々を引きつけるのはなぜか理解し、社会や企業にもたらす効果について
4	グループディスカッション/ペアワーク	単元の内容に関わる内容についてグループでディスカッション。トピックについてはSelf Checkより深掘りした内容または沖縄に関わる内容とする。
5	観光が地域や国際経済・社会にもたらす効果	観光産業が地域に与える影響を具体例を含めて/インバウンド・アウトバウンドなどの国際的なヒトモノの動きについて
6	グループディスカッション/ペアワーク	単元の内容に関わる内容についてグループでディスカッション。トピックについてはSelf Checkより深掘りした内容または沖縄に関わる内容とする。
7	旅と旅行/観光/余暇	観光に関わる言葉について理解し、人生にとって観光が基礎的な生活に関わっている所を学ぶ
8	レクリエーション/ホスピタリティ	レクリエーションの狭義と広義について並びにホスピタリティについて

9	観光を構成する要素	これからの観光を構成するモノ・コトや観光対象・観光者について
10	グループディスカッション/ペアワーク	単元の内容に関わる内容についてグループでディスカッション。トピックについてはSelf Checkより深掘りした内容または沖縄に関わる内容とする。小テストの実施。
11	観光事業の意味と仕組み	観光の対象となるモノ・コトを生み出す観光事業の仕組みについて
12	グループディスカッション/ペアワーク	単元の内容に関わる内容についてグループでディスカッション。トピックについてはSelf Checkより深掘りした内容または沖縄に関わる内容とする。
13	観光資源の意味と観光対象	観光に出かける人々が行動するのは観光する対象モノ・コト
14	グループディスカッション/ペアワーク	単元の内容に関わる内容についてグループでディスカッション。トピックについてはSelf Checkより深掘りした内容または沖縄に関わる内容とする。
15	観光対象の特徴	観光する対象となるモノ・コトの内容とその特性
16	グループディスカッション/ペアワーク	単元の内容に関わる内容についてグループでディスカッション。トピックについてはSelf Checkより深掘りした内容または沖縄に関わる内容とする。
17	観光産業の構成と特徴	観光産業の特徴と種類を把握する。
18	グループディスカッション/ペアワーク	単元の内容に関わる内容についてグループでディスカッション。トピックについてはSelf Checkより深掘りした内容または沖縄に関わる内容とする。
19	観光産業・ビジネスの特徴	観光産業に共通のする特有の課題を理解する。
20	グループディスカッション/ペアワーク	単元の内容に関わる内容についてグループでディスカッション。トピックについてはSelf Checkより深掘りした内容または沖縄に関わる内容とする。小テストの実施。
21	労働集約産業について	MICEについて（沖縄の事例をいれて）
22	グループディスカッション/ペアワーク	単元の内容に関わる内容についてグループでディスカッション。トピックについてはSelf Checkより深掘りした内容または沖縄に関わる内容とする。
23	様々な観光ビジネス 旅行業編	旅行業とは何か、その歴史と商品形態を含めて
24	グループディスカッション/ペアワーク	単元の内容に関わる内容についてグループでディスカッション。トピックについてはSelf Checkより深掘りした内容または沖縄に関わる内容とする。
25	様々な観光ビジネス 旅行業編	旅行業と地域の関わりや観光と地方創生
26	グループディスカッション/ペアワーク	単元の内容に関わる内容についてグループでディスカッション。トピックについてはSelf Checkより深掘りした内容または沖縄に関わる内容とする。
27	様々な観光ビジネス 宿泊産業編	宿泊産業の歴史と発展/様々な宿泊施設の種類について
28	グループディスカッション/ペアワーク	単元の内容に関わる内容についてグループでディスカッション。トピックについてはSelf Checkより深掘りした内容または沖縄に関わる内容とする。
29	様々な観光ビジネス 宿泊産業編	ホテルの機能と業務・期末テスト実施。
30	グループディスカッション/ペアワーク	単元の内容に関わる内容についてグループでディスカッション。トピックについてはSelf Checkより深掘りした内容または沖縄に関わる内容とする。「温泉の無い沖縄に旅館が必要か否か」

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	観光総合知識B		
必修選択	選択	(学則表記)	観光総合知識B		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	観光学基礎 観光に関する14章			出版社	JTB総研

科目の基礎情報②

授業のねらい	観光とは何か、観光産業とはどのような産業、観光ビジネスの特性は何かという基礎の理解並びに実際に起きていること今後起こりうる課題や事象を考え、今後観光市場がどのように動くのかを理解する。				
到達目標	授業や自己で学んだことを踏まえ、日本の観光産業における課題を見つけ解決策を見出すことができる。				
評価基準	小テスト50% 授業態度30% 期末テスト20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	国内旅行業務取扱管理者資格				
関連科目	国内旅行業務取扱管理者資格				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	吉川 温子			実務経験	○
実務内容	県内旅行会社にて勤務経験。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	様々な観光ビジネス交通 運輸業編	観光と交通の関わり/交通と運輸業
2	グループディスカッション/ペアワーク	単元の内容に関わる内容についてグループでディスカッション。トピックについてはSelf Checkより深掘りした内容または沖縄に関わる内容とする。
3	様々な観光ビジネス交通 運輸業編	観光交通ビジネスの特性/観光交通への新たな要請
4	グループディスカッション/ペアワーク	単元の内容に関わる内容についてグループでディスカッション。トピックについてはSelf Checkより深掘りした内容または沖縄に関わる内容とする。「ゆいレールの課題と今後について」
5	様々な観光ビジネス交通 観光地編	テーマパーク/スキー場のビジネス特性について
6	グループディスカッション/ペアワーク	単元の内容に関わる内容についてグループでディスカッション。トピックについてはSelf Checkより深掘りした内容または沖縄に関わる内容とする。「沖縄でテーマパークを展開する上で重要なことは？」
7	様々な観光ビジネス交通 観光地編	展示観光施設/観光土産品と土産品業

8	グループディスカッション/ペアワーク	単元の内容に関わる内容についてグループでディスカッション。トピックについてはSelf Checkより深掘りした内容または沖縄に関わる内容とする。「沖縄兼の土産品と他県との共通点や違い/新しい土産の発送について」
9	観光と情報	観光行動と情報、その媒体とツールについて
10	グループディスカッション/ペアワーク	単元の内容に関わる内容についてグループでディスカッション。トピックについてはSelf Checkより深掘りした内容または沖縄に関わる内容とする。「実際に行ったことのない国についてグループで調べてみる」・小テストの実施。
11	観光と情報	効果的な観光情報の発信・提供方法
12	グループディスカッション/ペアワーク	単元の内容に関わる内容についてグループでディスカッション。トピックについてはSelf Checkより深掘りした内容または沖縄に関わる内容とする。「沖縄における効果的な情報発信しているサイトを調べ、改善点が無いかみんなで話し合う。」
13	観光政策と観光行政	日本における観光政策と観光行政について
14	グループディスカッション/ペアワーク	日本における今後の観光政策についての課題や提案
15	観光政策と観光行政	地方における観光製作と観光行政について
16	グループディスカッション/ペアワーク	沖縄県における観光政策についての課題や提案
17	観光のマーケティング	マーケティングと観光への応用について
18	グループディスカッション/ペアワーク	観光におけるマーケティングの重要性について
19	観光のマーケティング	観光マーケティング活動の実際（沖縄の事例をいれて）
20	グループディスカッション/ペアワーク	沖縄県における観光マーケティングの分析・小テストの実施。
21	旅の歴史とこれからの旅行	旅の歴史について
22	グループディスカッション/ペアワーク	沖縄観光産業並びに旅行の歴史について
23	旅の歴史とこれからの旅行	マスツーリズムからサステイナブルツーリズムへ
24	グループディスカッション/ペアワーク	なぜ今サステイナブルという言葉をよく聞くのか
25	観光のこれからについて	サステイナブルツーリズムにおける世界や経済界の動向
26	グループディスカッション/ペアワーク	沖縄における持続可能な観光開発について
27	観光のこれからについて	沖縄における持続可能な観光開発について
28	グループディスカッション/ペアワーク	沖縄における持続可能な観光開発について
29	プレゼン発表	沖縄における持続可能な観光開発について 各グループでの発表
30	まとめ	1年の振り返り。自分たちが何を学んだのか、今後その知識をどう活かすのか。振り返りシート配布する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	英語検定対策ⅡA（TOEIC）		
必修選択	選択	（学則表記）	英語検定対策ⅡA		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	TOEIC L&R テスト直前の技術 TOEIC L&Rテスト英単語ターゲット1100			出版社	アルク 旺文社

科目の基礎情報②

授業のねらい	英語の基礎力を身につける		
到達目標	英語に慣れ親しみ、TOEICで自己ベストを出す		
評価基準	定期テスト40%、授業態度30%、小テスト30%		
認定条件	・出席が総時間の3分の2以上あるもの ・成績評価が2以上の者		
関連資格	TOEIC、英語実用技能検定		
関連科目	英語検定対策ⅠA、英語検定対策ⅠB、英語検定対策ⅡB		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	金 鶴	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	初回テスト	初回テスト実施、目標設定
2	オリエンテーション	自己紹介、TOEICについて、到達目標について
3	1日目	Part2-1~3 リスニング問題/応答問題
4		
5	2日目	Part2-4~6 リスニング問題/応答問題
6		
7	3日目	Part5-1~4 ライティング/短文穴埋め問題
8		

9	4日目	Part5-5~8 ライティング/ 短文穴埋め問題
10		
11	過去問1①	模擬試験
12	解答解説①	模擬試験
13	前期テスト	前期テスト実施
14	過去問②	模擬試験
15	解答解説②	解答解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	英語検定対策ⅡB（TOEIC）		
必修選択	選択	（学則表記）	英語検定対策ⅡB		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	TOEIC L&R テスト直前の技術 TOEIC L&Rテスト英単語ターゲット1100			出版社	アルク 旺文社

科目の基礎情報②

授業のねらい	英語の基礎力を身につける		
到達目標	英語に慣れ親しみ、TOEICで自己ベストを出す		
評価基準	定期テスト40%、授業態度30%、小テスト30%		
認定条件	・出席が総時間の3分の2以上あるもの ・成績評価が2以上の者		
関連資格	TOEIC、英語実用技能検定		
関連科目	英語検定対策ⅠA、英語検定対策ⅠB、英語検定対策ⅡA、		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	金 鶴	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	前期の振り返り
2	5日目	Part6-1~5 長文穴埋め問題
3		復習問題
4	6日目	Part3-1~4 会話問題
5		復習問題
6	7日目	Part3-5~8 会話問題
7		復習問題
8	8日目	Part4-1~6 説明文問題

9		復習問題
10		Part71-7 読解問題
11	9日目	復習問題
12	10日目	Part7-8~10 読解問題
13	11日目	復習問題/Part5
14	後期テスト	後期テスト実施
15	振り返り	全パート振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	観光英会話ⅡA		
必修選択	選択	(学則表記)	観光英会話ⅡA		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	ツアーコンダクターの英語			出版社	J T B 総研

科目の基礎情報②

授業のねらい	添乗業務のシチュエーション別実践英会話を学ぶ				
到達目標	添乗英語の特徴と英語が必要な場面を理解し簡単な会話ができる				
評価基準	授業態度50% 小テスト50%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	インバウンド接客英会話・TOEICテスト				
関連科目	TOEIC・ホテル英会話				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	モーゼス・ドゥビエン			実務経験	○
実務内容	大学・大手英会話教室にて10年の講師実務経験有				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ到着目標について
2	Lesson 1 In the Airplane	機内で
3		Plus supplement
4	Lesson 2 Arrival at the airport	空港到着
5		Plus supplement
6	Lesson 3 At the Hotel	ホテル1
7		Plus supplement／テスト

8	Lesson 4 Hotel 2	ホテル2
9		Plus supplement
10	Lesson 5 Free Activities 1	予約、自由行動など
11		Plus supplement / テスト
12	Lesson 6 Free Activities 2	バス、写真など
13		Plus supplement
14	Lesson 7 At the Restaurant	注文、メニューなど
15		Plus supplement/テスト

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	観光英会話ⅡB		
必修選択	選択	(学則表記)	観光英会話ⅡB		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	ツアーコンダクターの英語			出版社	J T B 総研

科目の基礎情報②

授業のねらい	添乗業務のシチュエーション別実践英会話を学ぶ				
到達目標	添乗英語の特徴と英語が必要な場面を理解し簡単な会話ができる				
評価基準	授業態度50% 小テスト50%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	インバウンド接客英会話・TOEICテスト				
関連科目	TOEIC・ホテル英会話				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	モーゼス・ドゥビエン			実務経験	○
実務内容	大学・大手英会話教室にて10年の講師実務経験有				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	Sightseeing and Technical Visit	観光通訳ガイドなど
2		Plus supplement
3	Troubles and Accidents	事項処理など
4		Plus supplement／テスト
5	Returning Trip	現地への移動と帰国
6		Plus supplement
7	資料1	身体の部分
8		Plus supplement

9	資料2	病気や怪我への対応
10		Plus supplement／テスト
11	資料3	空港などの施設表示の読み方
12		Plus supplement
13	資料4	旅行英語の用語集
14		Plus supplement／テスト
15	まとめ	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	ユニバーサルサービス		
必修選択	選択	(学則表記)	ユニバーサルサービス		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	教員作成授業用資料			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	様々な身体の特長を持つ方を知り、体験を通し、幅のあるサービスができるようになる。				
到達目標	障害や、加齢、妊娠などによる身体の変化を知り、体験をすることで、どのような方にも快適なサービスが提供できるようにする。				
評価基準	授業態度 60% 実技試験 40%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	與那嶺 佳吾			実務経験	○
実務内容	県内にて児童デイサービスの運営、介護経験あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 人の命とは？	授業のねらい・到達目標・成績評価について説明 人間が産まれてくる過程を理解し、命の尊さをする。
2		
3	人が育つということ。	妊娠してから成長するまでどのような過程があるのか。妊婦体験。
4		
5	障害とは？	障害とは、どんなことを言うのか？理解する。
6		
7	耳が聴こえない世界	耳が聴こえない体験を通じて難聴がある方への介入方法をする。
8		

9	目が見えないとは？	目が見えない体験を通し、視力障害があるかたへの介入をする。
10		
11	四肢障害	車イスを使った実習
12		
13	体験を通して	体験を通して、様々な身体の特長を持った方への介入方法を考える。
14		
15	体験を通して	ホテルや空港で起きやすい事象と、その対応方法を考える。
16		
17	体験を通して	これまでの振り返り。
18		
19	高齢者とは？	高齢者の身体的特長を知る。
20		
21	高齢者への関わり	高齢者の身体的特長を理解した上での介入の方法とは？
22		
23	外国人観光客への対応	日本語が伝わらない方に、どのようなサービスができるのか考えてみる。
24		
25	外国人観光客への対応	外国人への、対応、サービスの実践。
26		
27	総復習	今までの総復習
28		
29	まとめ	学んだことのまとめ、振り返り。
30		

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	インバウンド接客中国語A		
必修選択	選択	(学則表記)	インバウンド接客中国語A		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	基礎からレッスン初めての中国語			出版社	アルク

科目の基礎情報②

授業のねらい	中国語が好きになり、積極的にアウトプットが出来るようになる		
到達目標	中国語が好きになり、積極的にアウトプットが出来るようになる		
評価基準	小テスト・期末テスト:40% 提出物:30% 授業態度・出席:30%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	みんなの外国語（中国語）検定		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	黄姜珍	実務経験	○
実務内容	中国語講師		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標等について 授業の参加方法などの説明・中国（語）についての意識調査
2	ステップ1-第1～3課	中国語発音（声調・母音①単母音）
3	ステップ1-第5～6課	中国語発音（母音②複母音・鼻母音）
4	ステップ1-第4課	中国語発音（子音①唇音・舌尖音・舌根音）
5	ステップ1-第4課	中国語発音（子音②舌面音・そり舌音・舌歯音）
6	ステップ1-第7課	中国語発音（軽声・声調変化・発音表記について）
7	ステップ2-第1～5課	基本・初対面・別れ・再開のあいさつと返事のことば
8	ステップ2-第6～10課	食事のあいさつと感謝・おわび・お祝い・感情を表すことば

9	ステップ3-第1～6課	自己紹介・状態を伝える際に必要な表現
10	ステップ3-第7～12課	所有・存在の表現、疑問詞疑問文、時間詞の表現
11	ステップ3-第13～17課	能願動詞と好みを伝える表現
12	ステップ3-第18～22課	二重目的語、前置詞、進行表現、様態補語、丁寧な依頼“请”
13	ステップ3-第23～25課 ステップ4-第4,5課	完了、経験伝える表現、禁止表現 ホテルで使える単語・フレーズ
14	前期末試験	テストを実施する（筆記、聴解、会話）
15	課外学習（案）	実際に外へ出て中国の物、中国語にふれてみる

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	インバウンド接客中国語B		
必修選択	選択	(学則表記)	インバウンド接客中国語B		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	ホテルエアトラベル科	1	30
使用教材	基礎からレッスン初めての中国語			出版社	アルク

科目の基礎情報②

授業のねらい	中国語が好きになり、積極的にアウトプットが出来るようになる		
到達目標	発音の基礎を学び、自信を持って検定に臨める能力を養う		
評価基準	小テスト・期末テスト:40% 提出物:30% 授業態度・出席:30%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	みんなの外国語（中国語）検定		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	黄姜珍	実務経験	○
実務内容	中国語講師		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標等について 目的意識の確認と最後に行う発表会について考えてもらう
2	復習・必要用語単語の学習	前期までの復習及び後期開催の試験に向けて必須の語彙やフレーズを学習する
3	特化テキスト第1課 部屋の予約接客	【ルームの予約を受ける時に必要な中国語を学ぶ】
4	特化テキスト第2課 チェックイン	【お客様がチェックインする際に必要な中国語を学ぶ】
5	特化テキスト第3課 客室係の接客	【お客様に部屋の案内をするのに必要な中国語を学ぶ】
6	中間テスト	テキスト第1～3課までの復習
7	特化テキスト第4課 ルームサービス	ルームサービスをする際に必要な中国語を学ぶ
8	特化テキスト第5課 要望・トラブル対応	客層を把握し、迅速に対応する為の中国語を学ぶ

9	特化テキスト第6課 チェックアウト	お客様がチェックアウトをする際に必要な中国語を学ぶ
10	期末テスト	テキスト第4～6課までの復習及び総まとめのテスト
11	試験対策	必要に応じて発表・試験のサポートを行う
12	試験対策	必要に応じて発表・試験のサポートを行う
13	試験対策	必要に応じて発表・試験のサポートを行う
14	課外授業②	実際に外へ出て中国の物、中国語にふれてみる
15	小発表会	中国に関して自身が興味を持った事をピックアップし、皆に発表する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	観光プロデュースA		
必修選択	選択	(学則表記)	観光プロデュースA		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	なし			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	観光という観点から社会問題の解決を図るための取り組みを考察・実施する。				
到達目標	これまでの授業や実習を通じて学んできたことを生かし、沖縄県が抱える社会問題に焦点を当て、その問題を解決するために観光という観点から自分たちに何ができるか自発的に考え、行動することが出来ている。 仲間と協力し、ひとつのものを作り上げようという意識が醸成できている。				
評価基準	授業態度・姿勢 70% プレゼン 30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	観光実践Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	相澤 和人			実務経験	○
実務内容	旅行業・観光業歴30年以上、沖縄観光まちづくり歴15年以上				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	これから実施していくことの流れとゴールの説明
2	沖縄の課題	沖縄県が抱える課題に関して個人ワークで洗い出しを行う
3	沖縄の課題	前回行ったワークをグループ単位で実施、分析を行う
4	プレゼン概要	グループで行うプレゼンの概要説明
5	プレゼン作成	グループごとにプレゼンの作成
6	プレゼン作成	グループごとにプレゼンの作成
7	プレゼン作成	グループごとにプレゼンの作成
8	プレゼン作成	グループごとにプレゼンの作成
9	プレゼン練習	グループごとに作成したプレゼンの練習

10	プレゼン練習	グループごとに作成したプレゼンの練習
11	プレゼン練習	グループごとに作成したプレゼンの練習
12	コンペティション	グループごとに作成したプレゼン資料を用いてプレゼンの実施
13	コンペティション振り返り	コンペティションの結果発表と振り返り
14	実施に向けた方向性決め	優勝グループのプレゼンを基盤に実施に向けた方向性を確定させる
15	実施に向けた方向性決め	優勝グループのプレゼンを基盤に実施に向けた方向性を確定させる（役割分担など）

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	観光プロデュースB		
必修選択	選択	(学則表記)	観光プロデュースB		
開講				単位数	時間数
年次	2 年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	なし			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	観光という観点から社会問題の解決を図るための取り組みを考察・実施する。				
到達目標	これまでの授業や実習を通じて学んできたことを生かし、沖縄県が抱える社会問題に焦点を当て、その問題を解決するために観光という観点から自分たちに何ができるか自発的に考え、行動することが出来ている。 仲間と協力し、ひとつのものを作り上げようという意識が醸成できている。				
評価基準	授業態度・姿勢 80% レポート 20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	相澤 和人			実務経験	○
実務内容	旅行業・観光業歴30年以上、沖縄観光まちづくり歴15年以上				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	本番を迎えるまでのスケジュールの確認
2	企画実施に向けた活動	役割にわかれて企画実施に向けた活動を行う 必要に応じて外部企業様との打ち合わせや買い出し等も極力この時間内に実施すること
3	企画実施に向けた活動	
4	企画実施に向けた活動	
5	企画実施に向けた活動	
6	企画実施に向けた活動	
7	企画実施に向けた活動	

8	企画実施に向けた活動	役割にわかれて企画実施に向けた活動を行う 必要に応じて外部企業様との打ち合わせや買い出し等も極力この時間内に実施すること
9	企画実施に向けた活動	
10	企画実施に向けた活動	
11	企画実施に向けた活動	
12	企画実施に向けた活動	
13	紙面リハ	本番当日のイメージが持てるように統括を中心に紙面リハの実施
14	リハーサル	本番にむけたリハーサルの実施
15	振り返り	本番の振り返りのレポート実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	営業スキル&観光マーケティングA		
必修選択	選択	(学則表記)	営業スキル&観光マーケティングA		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	プレステップマーケティング			出版社	弘文堂

科目の基礎情報②

授業のねらい	課題解決型の営業スキルと、マーケティング思考への理解を深める				
到達目標	営業・マーケティングとはどういうものなのかを理解し、実践できる				
評価基準	ワークの発表：40% 提出物：30% 小テスト：30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	相澤 和人			実務経験	○
実務内容	旅行業・観光業歴30年以上、沖縄観光まちづくり歴15年以上				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション マーケティングとは何か？	授業のねらい・到達目標について 売れる仕掛けのつくりかた、を知る
2	STP(1) セグメンテーション〈S〉と ターゲティング〈T〉	誰に買ってもらいたいのか、を考える
3	STP(2) ポジショニング〈P〉	市場での位置を決め、顧客ニーズをつかむ
4	4つのP(1) Product〈製品〉	売れる商品とは何か、を知る
5	4つのP(2) Price〈価格〉	価格設定の考え方、を理解する
6	4つのP(3) Place〈流通チャネル〉	どこで売なのか、を考える
7	4つのP(4) Promotion〈販売促進〉	ネット広告とテレビ広告の違い
8	具体例で考えるSTPと4つのP	ヘルシア緑茶は何を解決する商品か、考える

9	売り手・買い手の力関係 業界内の競争関係	ライバルと業界について
10	消費者行動	何げなく手を取る商品にこめられた狙いとは
11	eコマース	ネット販売が何を変えたか
12	サービス業のマーケティング	モノとサービスの売り方の違い
13	法律と政策の関与	競争とルール
14	ソーシャル・マーケティング	SNSと購買行動の関係性
15	前期のまとめ	テスト

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	営業スキル&観光マーケティングB		
必修選択	選択	(学則表記)	営業スキル&観光マーケティングB		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	プレステップマーケティング<新版>			出版社	弘文堂

科目の基礎情報②

授業のねらい	課題解決型の営業スキルと、マーケティング思考への理解を深める				
到達目標	営業・マーケティングがどういうものかを知り、実践できる状態				
評価基準	ワークの発表：40% 提出物：30% 小テスト：30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	相澤 和人			実務経験	○
実務内容	旅行業・観光業歴30年以上、沖縄観光まちづくり歴15年以上				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	お客様本位の営業	自分本位の営業と、お客様の立場にたった営業の違い
2	3Cと競合優位性	3つのCを理解して、マドンナをデートに誘う
3	ソーシャルスタイル別のアプローチ	大人しいお客様と、陽気なお客様。どのようにアプローチするか
4	お客様の優先順位を整理する	MUSTとWANTの整理を体験する
5	SWOT	アシックスとナイキの違いから、SWOT分析を理解する
6	営業力の3要素	ナレッジ、スキル、マインド
7	質問と共感	拡大質問、特定質問など、実際に使って会話する練習
8	商談の環境を作る	ラポールと動機づけ、を学ぶ

9	セールスポイントの使い分け	同じ業種でも扱う商品によって、接客方法が変わることを知る
10	ロジカルシンキング①	架空のコーヒーチェーンの売上減少の理由を探る
11	ロジカルシンキング②	売上減少の理由を深掘りする
12	ロジカルシンキング③	売上を回復させる具体的な取り組み方法を考える
13	ブランディング	重要なのは事実ではなく知覚された価値
14	アイデアと実行策	ターゲットインサイトとアイデア
15	後期のまとめ	テスト

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	キャリアデザインⅡA		
必修選択	選択	(学則表記)	キャリアデザインⅡA		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	1	15
使用教材	教員作成授業用資料			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	本格化する就職活動に向けて、自ら積極的に動き、採用試験に臨ませる。				
到達目標	企業へのエントリーをし、説明会に数多く参加する。採用試験に臨み選考に進み内定、入社承諾まで目指す。 また社会人として求められる能力を理解し、観光業界における生き抜き方を知る。				
評価基準	授業態度：20％　／　提出物：50％　／　プレゼン：30％				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	キャリアデザインⅡB				
備考					
担当教員	吉川　温子			実務経験	○
実務内容	県内旅行会社にて勤務経験。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	就職活動の流れ・企業情報	到達目標の確認、雇用形態の確認
2	送付状・お礼状の書き方について	履歴書送付の仕方、ポイントや注意点、郵送方法を確認
3	セミナーについて・服装について	説明会・セミナーの受け方を理解
4	新着求人の案内・企業研究（都心部と地方の違い）	採用の現状を理解
5	受かる履歴書・ESとは	企業目線のポイント、早期内定者からの成功例共有
6	面接対策①	面接対策の実施（対面、オンライン、動画撮影など選択可）
7	面接対策②	
8	面接対策③	

各回の展開		
回数	単元	内容
9	早期活動者より講話	早期活動者・内定者より就活のポイント、内定した企業の志望動機・魅力、面接のポイントの共有
10	セミナー・就職活動スケジュールの作成	後期に向けたスケジュールを立て直す
11	PCスキル①	Wordの使い方を学ぶ
12	PCスキル②	Excelの使い方を学ぶ
13	PCスキル③	PowerPointの使い方を学ぶ
14	PCスキル④	志望先の業種に合わせた掲示物等の作成
15	総まとめ	総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	キャリアデザインⅡB		
必修選択	選択	(学則表記)	キャリアデザインⅡB		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	1	15
使用教材	教員作成授業用資料			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	本格化する就職活動に向けて、自ら積極的に動き、採用試験に臨ませる。				
到達目標	企業へのエントリーをし、説明会に数多く参加する。採用試験に臨み選考に進み内定、入社承諾まで目指す。 また社会人として求められる能力を理解し、観光業界における生き抜き方を知る。				
評価基準	授業態度：20% / 提出物：50% / プレゼン：30%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	キャリアデザインⅡA				
備考					
担当教員	吉川 温子			実務経験	○
実務内容	県内旅行会社にて勤務経験。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	後期就職活動の流れについて	後期の就職活動の流れと現状、採用情報を公開
2	内定者より講話	内定者より就活のポイント、内定した企業の志望動機・魅力、面接のポイントの共有
3	SNSでの効果的発信と外的影響	SNSでの効果的発信と外的影響を学ぶ
4	ICTリテラシー	ICTを正しく利用、活用する力を身に着ける
5	入社・入社中・退社について①	企業目線のポイント、早期内定者からの成功例共有
6	入社・入社中・退社について②	
7	ビジネスマインドについて	学生と社会人の違いを理解、ビジネスマインドと求められる力を説明・確認
8	ビジネススキルについて	ビジネススキルの基礎について学び、実践

各回の展開		
回数	単元	内容
9	お金について①	保険や税金について働いた先を理解
10	お金について②	ライフプラン、資産形成
11	キャリアプランシートの作成①	キャリアプランシートの作成方法、作成についての留意事項の説明
12	キャリアプランシートの作成②	キャリアプランシートの作成
13	発表	自身のキャリアプランについて発表
14	アドバイスシートの作成	次年度就職活動をする後輩たちへのアドバイスシートの作成
15	まとめ	1年間の復習、卒業後の学校との連携

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	手話		
必修選択	選択	(学則表記)	手話		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	手話で学ぼう手話で話そう			出版社	手話で学ぼう手話で話そう

科目の基礎情報②

授業のねらい	聴覚障害者の言語である「手話」の基本と聴覚障害者に関する知識を学ぶ。		
到達目標	・接客場面に於ける聴覚障害者への配慮と対応方法を学び、基本的な手話を習得し、実践できる。 ・外見では分かりにくい聴覚障害についての理解を深めながら、実際に聴覚障害者と接した時に、適切な対応ができ、且つ積極的なコミュニケーションをとるための方法を学ぶ。		
評価基準	筆記試験：40％ 読み取り試験：30％ 小テスト：20％ レポート：10％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	全国手話検定		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	北村 敢	実務経験	○
実務内容	保育士免許取得後、保育園、障害者施設等での10年以上の勤務経験あり		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 講義：聴覚障害・手話について	授業の説明・注意事項 「聴覚障害者・コミュニケーションについて」
2	伝えあってみましょう 自己紹介	身振り、表情を工夫することを考え相手に伝える 手話で挨拶・名前を紹介する。指文字を覚える
3	家族紹介 数を使って話す	自己紹介、家族に関わる手話を覚える 数字の表し方、疑問詞の使い方を知る
4	講義：聴覚障害者の生活Ⅰ 趣味について話す	①DVD鑑賞　②「福祉制度について」 趣味に関わる手話表現が正確にできる
5	仕事について話す 接客の時に使う手話Ⅰ	仕事に関わる手話を覚える 接客関係の仕事を中心にいろいろな職業の表し方を覚える
6	講義：聴覚障害者の生活Ⅱ 住所を紹介する	「聴覚障害者の生活について～講師の体験～」 住所に関わる手話を覚える
7	まとめ・小テスト 接客の時に使う手話Ⅱ	復習・自己紹介のまとめ　読み取りテスト 接客関連単語、例文表現

8	講義：聴覚障害の基礎知識 接客対応例文Ⅰ	「耳の仕組み・聞こえの仕組みについて」 接客時に使う会話例文
9	時に関する手話Ⅰ	1日・週・1カ月に関わる手話を覚える
10	時に関する手話Ⅱ	1年に関わる手話を覚える。会話練習
11	話してみましょうⅠ	今まで学習した疑問詞を使って会話の練習をする
12	話してみましょうⅡ	病院・学校・職場などの生活場面を想像しながら手話で会話ができる 2人一組で会話練習
13	接客対応例文Ⅱ 手話検定に向けての学習	接客時に使う会話を文を練習する 手話検定5級・4級合格に向けて今まで学習した事の復習を行う
14	定期試験	試験を実施する
15	総まとめ 手話検定に向けての学習	試験の振り返りとまとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	プレゼンテーション		
必修選択	選択	(学則表記)	プレゼンテーション		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	60
使用教材	はじめてのPowerPoint2019			出版社	秀和システム

科目の基礎情報②

授業のねらい	社会人として必要なPowerPointの知識とプレゼンテーションスキルを習得する				
到達目標	パワーポイントを使用した実践的なプレゼンテーションができることができる				
評価基準	プレゼンテーション：40％ 提出物：30％ 小テスト：30％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	吉川 温子			実務経験	○
実務内容	県内旅行会社にて勤務経験。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 基本操作	授業の流れ、到達目標について、PowerPointとは PowerPoint
2		
3	PowerPointの基本操作	PowerPointの基本操作を学ぶ
4	プレゼンテーションの作成	新しいプレゼンテーションを作成する
5		
6	プレゼンテーションの編集	プレゼンテーションの様々な編集について学ぶ
7		

8		
9	作品作成	観光業界に関するテーマのPowerPoint作成とプレゼンテーション準備
10		
11		
12	上手なプレゼンとは	上手な発表の方法と評価について学ぶ
13		
14	発表	プレゼンテーションの発表会の実施
15		
16	PowerPointの応用操作	PowerPointの応用操作を学ぶ
17		
18		
19		
22	作品作成	観光業界に関するテーマのPowerPoint作成とプレゼンテーション準備
23		
24		
25		
26		
27	コンペティション	コンペティションの実施
28		
29		
30	総まとめ	プレゼンテーションの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	レストランサービス検定対策Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	レストランサービス検定対策Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	西洋料理料飲接客サービス技法 レストランサービス技能検定 学科試験合格をめざして		出版社	一般財団法人 職業訓練教材研究会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	国家検定試験受験に向けて、レストランにおける料飲ならびにサービスマナーに関する基本的な知識を習得する		
到達目標	国家検定レストランサービス技能士3級 学科試験合格を目標として、 ホテルサービスの基本知識と技術をもった人材になる		
評価基準	検定合格40% 各章のまとめ20%×2 授業態度20%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	国家検定 レストランサービス技能士3級		
関連科目	レストランサービス検定対策1 レストランサービス演習Ⅰ・Ⅱ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	宮城 正樹	実務経験	○
実務内容	県内ホテルにて支配人として勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 模擬試験	授業のルール・成績評価説明 模擬試験を実施する
2	宴会とレストランサービス5	プロトコール、配席のルール、国旗掲揚について
3	食文化	食の禁忌・食文化とテーブルマナーについて
4	まとめ	演習問題を実施する
5	施設管理 苦情対応と遺失物の取り扱い	ホテル設備と防災・苦情対応について
6	食品衛生及び公衆衛生	食品衛生法の定義と目的、食中毒の分類と特徴について
7	食品衛生及び公衆衛生	食品衛生法と公衆衛生について
8	安全衛生	労働安全衛生法と労働基準法について

9	まとめ	演習問題を実施する
10	検定対策1	検定試験に向けて対策を行う
11	検定対策2	検定試験に向けて対策を行う
12	検定対策3	検定試験に向けて対策を行う
13	検定対策4	検定試験に向けて対策を行う
14	検定対策5	検定試験に向けて対策を行う
15	検定対策6	検定試験に向けて総まとめの対策を行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	レストランサービス演習ⅡA		
必修選択	選択	(学則表記)	レストランサービス演習ⅡA		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	基礎からわかるレストランサービス スタンダードマニュアル			出版社	一般財団法人 職業訓練教材研究会

科目の基礎情報②

授業のねらい	国家検定実技試験受験に向けて、レストランにおける料飲サービスに関する基本的な動作を習得する				
到達目標	国家検定レストランサービス技能士3級 実技試験合格を目標として、 ホテルサービスの基本知識と技術をもった人材になる				
評価基準	検定学科合否20％・まとめ実践20％×2・評価シート20％・授業態度20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者$\square$				
関連資格	国家検定 レストランサービス技能士3級				
関連科目	レストランサービス検定対策1・Ⅱ レストランサービス演習Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	宮城 正樹			実務経験	○
実務内容	県内ホテルにて支配人として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション サーバーの使い方	授業の流れ、到達目標について サーバーの使い方を知る
2	朝食のサービス	朝食におけるサービスを行う
3	ランチタイムの サービス1	ランチタイムのテーブルサービスを行う
4	ディナータイムの サービス1	ディナータイムのサービスをおこなう
5	まとめ	学んだことを実践する
6	検定実技 シミュレーション1	過去の課題をテーマにチャレンジ

7	検定実技 シミュレーション2	過去の課題をテーマにチャレンジ
8	検定実技 シミュレーション3	過去の課題をテーマにタイムトライアル1
9	検定実技 シミュレーション4	過去の課題をテーマにチャレンジ
10	検定実技 シミュレーション5	過去の課題をテーマにチャレンジ
11	検定実技 シミュレーション6	過去の課題をテーマにタイムトライアル2
12	検定実技 シミュレーション7	過去の課題をテーマにチャレンジ
13	検定実技トライアル 総合実践確認	総合的な実践を踏まえた確認と復習
14	検定学科対策	学科試験対策に取り組む
15	まとめ	学科試験の振り返りと前期まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	レストランサービス演習ⅡB		
必修選択	選択	(学則表記)	レストランサービス演習ⅡB		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	基礎からわかるレストランサービス スタンダードマニュアル			出版社	一般財団法人 職業訓練教材研究会

科目の基礎情報②

授業のねらい	国家検定実技試験受験に向けて、レストランにおける料飲サービスに関する基本的な動作を習得する				
到達目標	国家検定レストランサービス技能士3級 実技試験合格を目標として、 ホテルサービスの基本知識と技術をもった人材になる				
評価基準	検定実技合否20％・まとめ実践20％×3・授業態度20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者"☑"				
関連資格	国家検定 レストランサービス技能士3級				
関連科目	レストランサービス検定対策1・Ⅱ レストランサービス演習Ⅰ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	宮城 正樹			実務経験	○
実務内容	県内ホテルにて支配人として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	国家試験 レストランサービス 実技試験対策	本年度課題に取り組む
2		本年度課題に取り組む
3		本年度課題に取り組む
4		本年度課題に取り組む
5		本年度課題に取り組む
6	テーブルマナー	大人の食卓マナーを学ぶ

7	ワイン抜栓と テイスティングの知識	ワインの取り扱いとワインサービスマナーを学ぶ
8	オリジナルカクテル 創作法1	①カクテルを創作する手順を学ぶ
9	オリジナルカクテル 創作法2	ノンアルコールカクテルをイメージし試作する
10	オリジナルカクテル 創作法3	オリジナルノンアルコールカクテルを完成させる
11	カクテルコンテスト（まとめ 実践）	実践する
12	オレンジのカービング	オレンジのカービングを行う
13	フレーミング デザート1	フレーミングデザートを作る
14	フレーミング デザート2	フレーミングデザートを作る
15	まとめ	学んだことを実践する

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ホテルマネジメントA		
必修選択	選択	(学則表記)	ホテルマネジメントA		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	ホテル・マネジメント概論			出版社	一般社団法人日本宿泊産業マネジメント協会

科目の基礎情報②

授業のねらい	ホテルマネジメント技能検定に合格し、マネジメントの観点からホテルを理解する。 また、実技授業を通して実践的な知識・技術を習得し企業が求める即戦力となる人材を目指す				
到達目標	・マネジメントを意識して働くことの重要性に気付く ・マネジメントの観点からホテルを理解する ・サービス面ばかりでなくマネジメントの面からも毎日の業務を考えることが出来る ・実習授業を通し、サービス技術を体得し、即戦力となる人材になる				
評価基準	・筆記テスト30％・実技テスト30％　・小テスト20％　・授業態度・提出物20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	ホテル実務実習、ホテルマネジメントB				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	宮城 正樹			実務経験	○
実務内容	県内ホテルにて支配人として勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方と検定概要　1年時の復習
2	業務運営管理2－3	宴会サービスの業務と要求される能力の理解
3	業務運営管理2－4	営業・マーケティング職種の業務と要求される能力の理解
4	業務運営管理2－5	施設管理職種の業務と要求される能力の理解
5	業務運営管理2－6	危機管理職種の業務と要求される能力の理解
6	業務運営管理2－7	経営管理職種の業務と要求される能力の理解
7	ホテル法務知識	ホテル法務知識の概要演習
8	購買管理・人材マネジメント	購買管理の概要理解・人材マネジメントの概要理解

9	定期テスト	定期テストの実施
10	検定直前対策	過去問等を使用し、直前対策を実施
11		
12		
13		
14		
15		

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ホテルマネジメントB		
必修選択	選択	(学則表記)	ホテルマネジメントB		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	ホテル・マネジメント概論		出版社	一般社団法人日本宿泊産業マネジメント協会	

科目の基礎情報②

授業のねらい	ホテルマネジメント技能検定3級に合格し、マネジメントの観点からホテルを理解する。 また、実技授業を通して実践的な知識・技術を習得し企業が求める即戦力となる人材を目指す		
到達目標	・マネジメントを意識して働くことの重要性に気付く ・マネジメントの観点からホテルを理解する ・サービス面ばかりでなくマネジメントの面からも毎日の業務を考えることが出来る ・実習授業を通し、サービス技術を体得し、即戦力となる人材になる		
評価基準	・筆記テスト30％・実技テスト30％　・小テスト20％　・授業態度・提出物20％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格			
関連科目	ホテル実務実習、ホテルマネジメントA		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	宮城　正樹	実務経験	○
実務内容	県内ホテルにて支配人として勤務		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方と実技試験の概要と特徴について
2	マネジャー業務	マネジャーに求められる能力の理解
3	ホテルの会計の概要①	ホテルの会計の概要の理解（1）
4	ホテルの会計の概要②	ホテルの会計の概要の理解（2）
5	ホテル・マーケティング	ホテル・マーケティング概要演習

6	検定直前対策	過去問等を使用し、直前対策を実施
7		
8		
9		
10	ベル業務実習	応用的なベル業務について学ぶ
11	フロント業務実習	応用的なフロント業務について学ぶ
12		
13	客室業務実習	応用的な客室業務について学ぶ
14	定期テスト	テストの実施
15	総括	訪日外国人の動向・ホテル業界の今後について学ぶ。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ホテル英会話A		
必修選択	選択	(学則表記)	ホテル英会話A		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	ホテル英会話Ⅰ 基礎編☒			出版社	一般財団法人日本ホテル教育センター☒

科目の基礎情報②

授業のねらい	英会話を通してお客様に満足のいく接客ができるようになる		
到達目標	ホテルを利用するお客様と最低限のコミュニケーションが取れる程度の英語を話せるようになる。		
評価基準	ロールプレイングテスト40% ・小テスト30%・授業態度30%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	インバウンド接客英会話・TOEICテスト		
関連科目	インバウンド接客英会話・観光英会話・TOEIC		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	藤田 隆子	実務経験	○
実務内容	国際交流機関にて10年勤務経験あり。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	授業の目的成績評価 授業ルール(ウェディング英語・英語 SONG)	授業ルール(日本語NG・質問英語プリント 毎週近況を言う)英語 SONGを歌ってみよう
2	英語の挨拶・自己紹介・質問 How are you today?	挨拶の仕方・自己紹介(名前・出身・国籍・仕事 学校・家族・趣味)
3	lesson1	①グリーティングフレーズ ②I'd like to～
4	lesson1	グリーティング ロールプレイング
5	lesson2	オーダーテイクの基本 客と定員のロールプレイング
6	lesson2 Dialogue1・2 オーダーテイク①②	オーダーテイクの基本 客と定員のロールプレイング メニュー表を使つての客と定員のロールプレイング
7	lesson2 Dialogue3～5	質問フレーズを使ったロールプレイング
8	lesson2 Exercise	ロールプレイング・筆記

9	lesson1・2 小テスト	会話&筆記
10	lesson3 Dialogue1～3	①よく使うフレーズ ③感謝・謝罪・残念のロールプレイング
11	lesson3 Exercise	ロールプレイング・筆記
12	lesson4 数字にまつわる基本	(lesson3小テスト) 数字・時間・フロアー・電話番号・お金 (数の数え方・通貨・桁の大きい金額)
13	lesson4 Exercise	ロールプレイング・筆記
14	How have you been? Lesson 5	(1)～(5) 道案内
15	Lesson 5	(6) 道案内・場所の説明

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ホテル英会話B		
必修選択	選択	(学則表記)	ホテル英会話B		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	ホテル英会話Ⅰ 基礎編☒			出版社	一般財団法人日本ホテル教育センター☒

科目の基礎情報②

授業のねらい	英会話を通してお客様に満足のいく接客ができるようになる		
到達目標	ホテルを利用するお客様と最低限のコミュニケーションが取れる程度の英語を話せるようになる。		
評価基準	ロールプレイングテスト40% ・小テスト30%・授業態度30%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	インバウンド接客英会話・TOEICテスト		
関連科目	インバウンド接客英会話・観光英会話・TOEIC		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	藤田 隆子	実務経験	○
実務内容	国際交流機関にて10年勤務経験あり。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	Lesson 5 Dialogue1～4	(1)～(5) 道案内
2	Lesson 5 Exercise	(6) 道案内・場所の説明
3	Lesson 6	(1)～(10)ゲスト案内
4	Lesson 6 Dialogue & Exercise	(1)～(10)ゲスト案内 お部屋案内
5	Lesson 7 Dialogue & Exercise	(1)～(6)クローク案内
6	Lesson 7 Dialogue & Exercise	(1)～(6)クローク案内の仕方
7	Lesson 8 Dialogue1・2・3	(1)～(13)フロントデスク
8	Lesson 8 Dialogue4・5・6 & Exercise	(1)～(13)フロントデスクでの案内

9	lesson5～8 小テスト	会話 & 筆記
10	How have you been? Lesson 9 Dialogue1・2	(1)～(8)ハウスキーピング
11	Lesson 9 Dialogue3・4 Exercise	(1)～(8)ハウスキーピングの説明
12	Lesson 10	(1)～(9)レストランスタッフ
13	Lesson 10 Dialogue & Exercise	(1)～(9)レストランスタッフの案内の仕方
14	lesson5～8 小テスト	lesson5～8 小テスト
15	まとめ	振り返り

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	出入国関連法令と実務Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	出入国関連法令と実務Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	海外旅行実務 出入国法令と実務			出版社	J T B 総合研究所

科目の基礎情報②

授業のねらい	国家試験である総合旅行業務取扱管理者に合格することを目的とする				
到達目標	前期の総合旅行業務取扱管理者対策Ⅰの受講者を対象に復習を重点にして上記試験に合格を目標				
評価基準	期末テスト：50% 小テスト・提出物 50%				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者				
関連資格	総合旅行業務取扱管理者試験				
関連科目	海外旅行地理、出入国法令、国際航空運賃、旅行英語、海外旅行実務				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	相澤 和人			実務経験	○
実務内容	旅行業・観光業歴30年以上、沖縄観光まちづくり歴15年以上				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	時差	時差の計算にはGMTが有効
2	OAG時刻表の見方 1	海外実務をする者の基礎知識
3	OAG時刻表の見方 2	海外実務をする者の基礎知識
4	所要時間の計算	時差の計算を基本に所要時間を出す学習
5	復習テスト 1	テストと解答
6	欧州鉄道の時刻表の見方	欧州時刻表の見方になれる
7	バス・船舶・ホテル・食事	海外実務をする者の基礎知識

8	復習テスト 2	テストと解答
9	旅券手続き 1	旅券の手続きの基本について復習
10	旅券手続き 2	様々な旅券手続きの確認
11	入国査証	入国VISAの基本について確認
12	検疫・税関手続き	帰国の際に必要な知識
13	携帯品の申告	日本に帰国の際の税関の免税範囲
14	ワシントン条約	入国の持ち込み規制について
15	テスト	テストと解答

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	海外観光資源Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	海外観光資源Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	海外旅行実務・海外観光資源 '23～'24年版 ユーキャンの旅行業務取扱管理者＜観光資源（国内・海外）＞ ポケット問題集&要点まとめ 旅に出たくなる地図			出版社	JTB総合研究所 ユーキャン

科目の基礎情報②

授業のねらい	国家試験（総合）に向けての準備と海外観光資源の基礎知識を身につける				
到達目標	- 総合旅行業務取扱管理者資格試験の海外地理の分野の部分で各自の目標点数に到達する - 旅行業界で必要な海外観光地の基礎知識を身につける				
評価基準	テスト40%、小テスト20%、提出物/宿題20%、授業態度20%				
認定条件	- 出席が総合時間の3分の2以上ある者 - 成績評価が2以上の者				
関連資格	総合旅行業務取扱管理者資格				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	荒木 佐和子			実務経験	○
実務内容	添乗員として7年の実務経験有(日本47都道府県・海外約30か国を訪れる)・大手旅行会社にて実務経験有				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	- 国家試験対策について - ヨーロッパの国々 - イギリス/フランス	- 国家試験の海外地理の試験についての対策及び勉強方法 - ヨーロッパの国々・イギリスとフランスの観光地
2	ドイツ/イタリア/スペイン	ドイツ、イタリア、スペインの観光地
3	国家試験の過去問題練習	- スイス、オーストリア、北欧などの観光地 - 美術館と博物館について（展示作品なども含めて）
4	国家試験の過去問題練習	ヨーロッパ分野の過去問題を使って試験対策
5	- アジアの国々 - 中国/台湾/韓国	ヨーロッパ分野の過去問題を使って試験対策
6	東南アジア/インドなど	- アジアの国々 - 中国、台湾、韓国の観光地

7	国家試験の過去問題練習	・ 東南アジア、インドなどの観光地
8	国家試験の過去問題練習	・ アジア分野の過去問題を使って試験対策
9	・ 北米/ハワイ	・ アジア分野の過去問題を使って試験対策
10	・ 中南米 ・ 国家試験の過去問題練習	・ 北米、ハワイの観光地
11	・ 国家試験の過去問題練習	・ 北米、ハワイ、中南米分野の国家試験を使って試験対策
12	・ オセアニア	・ 北米、ハワイ、中南米分野の国家試験を使って試験対策
13	・ テスト	・ テスト実施
14	・ 国家試験の過去問題練習	・ オセアニアなどの分野の国家試験を使って試験対策
15	・ アフリカ/トルコなど ・ 国家試験の過去問題練習	・ アフリカ、トルコ、中近東の国々の観光地 ・ アフリカ、トルコ、中近東分野の国家試験を使って試験対策

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	国際航空運賃Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	国際航空運賃Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	海外旅行実務・国際航空運賃・料金/約款			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	国家試験である総合旅行業務取扱管理者に合格することを目的とする		
到達目標	上記試験に合格できる能力をつける		
評価基準	期末テスト：50％　小テスト30％　提出物　20％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	総合旅行業務取扱管理者		
関連科目	海外地理・海外旅行実務		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	玉城　美奈	実務経験	○
実務内容	総合旅行業務取扱管理者を取得し、大手旅行会社にて8年の勤務経験を有する。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	キャリア運賃	理解度チェックテスト/解説
2	キャリア運賃	理解度チェックテスト/解説/まとめ
3	旅行業約款	国際旅客運送約款
4	旅行業約款	国際旅客運送約款
5	旅行業約款	国際旅客運送約款
6	旅行業約款	国際旅客運送約款
7	テスト	チェックテスト/解説/まとめ
8	キャリア運賃/約款	本試験レベル問題を解く

9	キャリア運賃/約款	本試験レベル問題を解く
10	キャリア運賃/約款	本試験レベル問題を解く
11	キャリア運賃/約款	本試験レベル問題を解く
12	キャリア運賃/約款	本試験レベル問題を解く
13	キャリア運賃/約款	本試験レベル問題を解く
14	キャリア運賃/約款	本試験レベル問題を解く
15	振り返りと総まとめ	テスト実施 テストの解説

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	旅行英語A		
必修選択	選択	(学則表記)	旅行英語A		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	教員作成のプリント（過去問題を使ったもの）			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	総合旅行業務取扱管理者資格の語学分野の問題を解答する読解力をつける		
到達目標	総合旅行業務取扱管理者資格の語学分野の問題の各自の目標点が取る		
評価基準	テスト４０％、小テスト２０％、提出物＆宿題２０％、授業態度２０％		
認定条件	・出席が総時間の３分の２以上あるもの ・成績評価が２以上の者		
関連資格	総合旅行業務取扱管理者資格		
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	金 鶴	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 国家試験について 関連語彙	授業のねらい・到達目標・成績評価について 国家試験の語学の部分について 必要となる関連語彙の確認
2	観光のついでの問題対策	過去問題より観光についての問題を使用して語彙、読解、問題解答
3	観光についての問題対策	過去問題より観光についての問題を使用して語彙、読解、問題解答
4	観光について問題対策	過去問題より観光についての問題を使用して語彙、読解、問題解答

5	ホテルについても問題対策	過去問題よりホテルについての問題を使用して語彙、読解、問題解答
6	ホテルについての問題対策	過去問題よりホテルについての問題を使用して語彙、読解、問題解答
7	鉄道についての問題対策	過去問題より鉄道についての問題を使用して語彙、読解、問題解答
8	鉄道についての問題対策	過去問題より鉄道についての問題を使用して語彙、読解、問題解答
9	クルーズについての問題対策	クルーズについての基本事項を解説 過去問題よりクルーズについての問題を使用して語彙、読解、問題解答
10	クルーズについての問題対策	過去問題よりクルーズについての問題を使用して語彙、読解、問題解答。小テストの実施。
11	契約などについての問題	過去問題より旅行会社と各施設や顧客との契約事項などについての問題を使用して語彙、読解、問題解答
12	契約などについての問題	過去問題より旅行会社と各施設や顧客との契約事項などについての問題を使用して語彙、読解、問題解答
13	その他の分野の問題	これまでの取り扱わなかった分野について（航空など）の問題を使用し、語彙、読解、問題解決
14	試験対策練習	過去問題を使って解答の練習・まとめテストの実施。
15	試験対策練習	過去問題を使って解答の練習

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	旅行英語B		
必修選択	選択	(学則表記)	旅行英語B		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	ホスピタリティコミュニケーションと講師作成のプリント		出版社	三修社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	接客英語を使いこなせるようになるための実践英語を身につける		
到達目標	英語を使つての接客の基礎を身につける		
評価基準	テスト４０％、小テスト２０％、提出物＆宿題２０％、授業態度２０％		
認定条件	・出席が総時間の３分の２以上あるもの ・成績評価が２以上の者		
関連資格			
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	金 鶴	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	英語の基礎	英語の基本的な文法や品詞などを振り返り確認、学習する
2	会話の基礎	これまで習ってきたような会話の基礎を使ってみる
3	U1 接客コミュニケーション	接客のコミュニケーションの基本とする語彙や文
4	U1 接客コミュニケーション	接客のコミュニケーションの基本とする語彙や文を使っての会話

5	U2～U3 航空関係の英語	航空会社で使われる英語の基本としての会話・小テストの実施。
6	U4 面接	面接に対する英会話について学ぶ
7	U5チケット販売	チケット販売の例をみながらカウンターでの接客英語について学ぶ
8	U9 ホテル業務内容	ホテル業務内容についての英語を学ぶ
9	U10 料理部門(F&B)	料理部門についての語彙、および会話などを学ぶ
10	観光業の英語	観光業の語彙・旅行英語について学ぶ（アウトバウンド）・小テストの実施。
11	観光業の英語	観光業の語彙・旅行英語と接客英語について学ぶ（アウトバウンドとインバウンド）
12	観光業の英語	観光業の語彙・接客英語について学ぶ（インバウンド）
13	テスト	会話の面接テストと語彙などのペーパーテスト
14	トラブル処理（U7&U11）	トラブルについての語彙や英文について学ぶ
15	インバウンド英語	インバウンド向けの北海道観光や食事などに関する英語を学ぶ。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ツアーコンダクター実務		
必修選択	選択	(学則表記)	ツアーコンダクター実務		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	旅程管理研修			出版社	JTB総合研究所

科目の基礎情報②

授業のねらい	・旅程管理者としての基本を学びながら、国内・海外添乗の実務を学ぶ。				
到達目標	・ツアーコンダクター・ガイドとして活躍できるレベルへの到達				
評価基準	・テスト：50％ 提出物・実地訓練：30％ 小テスト：20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	国内旅行業務取扱管理者・総合旅行業務取扱管理者・国内・総合旅程管理主任者				
関連科目	国内旅行業務取扱管理者Ⅰ 旅行業約款 国内旅行実務（国内運賃料金 国内観光資源・地理）				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	荒木 佐和子			実務経験	○
実務内容	添乗員として7年の実務経験有(日本47都道府県・海外約30か国を訪れる)・大手旅行会社にて実務経験有				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション ツアーコンダクターの基本	授業のねらい・到達目標・成績評価について 旅行の種類と旅程管理の関係について理解する。
2	ツアーコンダクターの役割、 留意点	企画旅行が負う業務とツアーコンダクターの役割
3	ツアーの流れとツアーコンダクター の業務	日帰りツアーを例として、ツアーコンダクター業務の流れを理解する
4	ツアーの流れとツアーコンダクター の業務	宿泊ツアーを例として、ツアーコンダクター業務の流れを理解する
5	実務の練習・訓練	添乗業務に必要なトーク練習。自分らしさを踏まえた挨拶の練習
6	国内ツアーコンダクター基礎知識	宿泊・鉄道・航空の実務を理解する。
7	国内ツアーコンダクター基礎知識	貸切バス・観光・食事関係の実務を理解する。
8	実地研修	観光地におけるツアーコンダクター実務の実地研修（外）

9	テスト	国内ツアーコンダクター実務のテスト実施
10	海外ツアーコンダクター基礎知識	国内旅行と海外旅行の違いとツアーコンダクター業務の違いを理解する
11	海外ツアーコンダクター基礎知識	海外の基礎知識、（手配、宿泊、航空、鉄道、貸し切りバス）
12	海外ツアーコンダクター基礎知識	海外の基礎知識、（トランスファーとミーティングスタッフ、観光、食事）
13	海外ツアーコンダクター基礎知識	海外の基礎知識、（出入国手続き、外国語等）
14	海外ツアーの流れとツアーコンダクターの業務	海外ツアーを例として、ツアーコンダクター業務の流れを理解する
15	事故とトラブルへの対応 テスト	未然防止や処理・報告・保険関係について テスト まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	ツアーデスク・カウンター実務		
必修選択	選択	(学則表記)	ツアーデスク・カウンター実務		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	講師作成プリントやパンフレット		出版社	J T B 総合研究所	

科目の基礎情報②

授業のねらい	旅行業への理解を深める		
到達目標	旅行会社勤務に必要な知識やテクニックを学ぶ		
評価基準	提出物や課題：70％ 授業態度：30％		
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者		
関連資格			
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	荒木 佐和子	実務経験	○
実務内容	添乗員として7年の実務経験有(日本47都道府県・海外約30か国を訪れる)・大手旅行会社にて実務経験有		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	宿泊施設知識	北海道内各地宿泊施設の特徴をつかむ
3	国内旅行カウンター販売知識	募集型企画旅行商品の販売
4	国内旅行カウンター販売知識	募集型企画旅行商品の販売

5	パンフレットについて	国内パンフレットの見方を学ぶ
6	パンフレットについて	海外パンフレットの見方を学ぶ
7	国内旅行カウンター販売知識	最終のご案内・お得意様づくりについて
8	販売のロールプレイング	カウンタートークを実践
9	販売促進POPについて	POPの基本について学ぶ
10	POP作成	旅行テーマを決め、POPを作成してみよう
11	POP作成	旅行テーマを決め、POPを作成してみよう
12	海外主要都市情報	日本人観光客に人気の観光地を調べる
13	海外主要都市情報	日本人観光客に人気の観光地の魅力をまとめる
14	海外主要都市情報	日本人観光客に人気の観光地の魅力をまとめる/発表
15	まとめ	チェックテスト/まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	マリン・フォレストガイドⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	マリン・フォレストガイドⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	PADI オープンウォーターダイバーマニュアル		出版社	PADI	

科目の基礎情報②

授業のねらい	自然体験活動を通じて問題解決力と伝達力・指導力を身につける				
到達目標	JCEA 野外活動コーチ合格				
評価基準	テスト：40％ 小テスト：30％ 提出物：30％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	JCEA 野外活動コーチ				
関連科目	マリンフォレストガイドⅠ（1年後期）				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	宮川 友宏（株式会社マレアクリエイト）			実務経験	○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標、自然体験と安全管理について
2	フィールド調査と環境教育	フィールド調査を通じて、地域の環境や危険性を発見する
3	安全管理トレーニング	危険予知トレーニングでリスクマネジメントについて学ぶ
4	実習① 水域での体験技術	水辺で体験できるアクティビティを体験する
5	実習② 海洋での体験技術	海で体験できるマリンアクティビティを体験する
6	潜水の歴史	欧米・アジアでの歴史、漁業・軍用・スポーツとしての潜水について
7	知識開発①	ダイバーの健康管理と呼吸に伴う空気・酸素・窒素の人体への影響について
8	プール実習①	器材に問題が発生した際の対処法を習得する

9	海洋実習①	器材に問題が発生した際の対処法を実際のダイビング活動で実践する
10	知識開発②	ダイブコンピューターを使用した計画と問題が発生した際の対処について
11	プール実習②	シュノーケリングとスキンダイビングを実施する
12	知識開発③	ダイビング医学界のガイドラインと減圧障害・ガス昏睡の予防と対処について
13	プール実習③	ガイドなしの水中探検をシミュレーションし、必要な技術を練習する
14	海洋実習②	ガイドなしの水中探検を計画する
15	知識の復習とテスト	まとめ。海洋環境、潜水物理・生理学、潜水器材、旅行計画について

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	リゾートヨガ・ピラティスA		
必修選択	選択	(学則表記)	リゾートヨガ・ピラティスA		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	教員作成授業用資料			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	リゾート地でのヨガやピラティスを体験することで、沖縄県の気候を活かしたアクティビティにおける観光サービスの理解を深め、自分自身が体験した内容を伝えることができるようになることを目的とする。				
到達目標	リゾートヨガ・ピラティスを指示通りに実践することができる				
評価基準	授業態度40%、小テスト40%、提出物20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	本間 千晶			実務経験	○
実務内容	ピラティスインストラクター8年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	クラス概要、到達目標について、沖縄県のアクティビティの現状について
2	ヨガとピラティスの違い	ヨガとピラティスの違いを理解する
3	アクティビティ実践①	沖縄県におけるヨガ・ピラティスの需要について知る
4	アクティビティ実践②	沖縄県で提供されているヨガ・ピラティスについて知る

5	トレーニング実践①	健康の3要素を知る
6	トレーニング実践②	トレーニングの効果について知る
7	トレーニング実践③	調整系エクササイズを知る
8	ヨガの歴史や概要	ヨガの歴史や概要を知る
9	ヨガの種類	ヨガの種類を知る
10	ヨガ体験①	ヨガの実践①
11	ヨガ体験②	ヨガの実践②
12	ヨガ体験③	ヨガの実践③
13	ヨガ体験④	ヨガの実践④
14	ヨガ体験⑤	ヨガの実践⑤
15	ヨガ体験⑥	ヨガの実践⑥・前期のまとめを行う。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	リゾートヨガ・ピラティスB		
必修選択	選択	(学則表記)	リゾートヨガ・ピラティスB		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	教員作成授業用資料			出版社	

科目の基礎情報②

授業のねらい	リゾート地でのヨガやピラティスを体験することで、沖縄県の気候を活かしたアクティビティにおける観光サービスの理解を深め、自分自身が体験した内容を伝えることができるようになることを目的とする。				
到達目標	リゾートヨガ・ピラティスを指示通りに実践することができる				
評価基準	授業態度40％、小テスト40％、提出物20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	本間 千晶			実務経験	○
実務内容	ピラティスインストラクター8年勤務				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	前期総まとめ	前期の振り返りを行う
2	前期のおさらい	前期のおさらい
3	トレーニング実践④	ダイエットについて知る
4	トレーニング実践⑤	水分補給について知る
5	トレーニング実践⑥	コアコンディショニングについて知る
6	ピラティスの歴史や概要	ピラティスの歴史や概要を知る

7	ピラティスの種類	ピラティスの種類を知る
8	ピラティス体験①	ピラティスの実践①
9	ピラティス体験②	ピラティスの実践②
10	ピラティス体験③	ピラティスの実践③
11	ピラティス体験④	ピラティスの実践④
12	ピラティス体験⑤	ピラティスの実践⑤
13	ヨガ・ピラティス実践①	ヨガとピラティスの違いを体感する
14	ヨガ・ピラティス実践②	基礎的なヨガを提供できるように実践する①
15	ヨガ・ピラティス実践③	基礎的なヨガを提供できるように実践する②

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	外国語Ⅱ		
必修選択	選択	(学則表記)	外国語Ⅱ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	美しい韓国語 1-2初級コース			出版社	EKOランゲージセンター

科目の基礎情報②

授業のねらい	基礎韓国語を話せる、書ける、基礎会話が出来るようにする		
到達目標	ハングル検定5級合格		
評価基準	授業態度50%、テスト50%		
認定条件	・ 出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・ 成績評価が2以上の者		
関連資格	ハングル検定5級		
関連科目	観光外国語Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	金 鶴	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ 到達目標等について説明
2	美しい韓国語1-2 第1課 今何処へ行きますか	目的地の表現 와と과の使い方を学ぶ
3	美しい韓国語1-2 第2課 韓国語辞書を買いたいです	買い物① 数字① 金額の表現 希望表現 否定文を学ぶ
4	美しい韓国語1-2 第3課 韓国語辞書一冊と葉書5枚です	買い物② 数量を表す表現 命令文を学ぶ
5	美しい韓国語1-2 第4課 友達に小包を送りに行きます	公共機関を利用する -(으)리 가다/오다 -에서의使い方を学ぶ
6	美しい韓国語1-2 第5課 試験はいつですか	日付 曜日 -(에서) 부터 -까지の使い方を学ぶ

7	美しい韓国語 1－2 第6課 午前11時に会議があります	時間 -동안 -아/어요の使い方を学ぶ
8	復習とテスト	復習とテスト
9	美しい韓国語 1－2 第7課 大学卒業後すぐ就職しました	過去形 西暦 - (으) 후에の使い方を学ぶ
10	美しい韓国語 1－2 第8課 時間があったら、民俗村に行きます	仮定形 未来形を学ぶ
11	美しい韓国語 1－2 第9課 水源駅まで電車で時間がどれくらいかかり ますか	交通手段 否定文 -(으)로 -고を学ぶ
12	美しい韓国語 1－2 第10課 シチョン駅で1号線に乗り換えなければなら ない	交通手段 電車の乗り換え -아/어야 하다 「ㄴ」の添加を学ぶ
13	美しい韓国語 1－2 第11課 一番出口から出て下さい	バスの乗り換えをたずねる 道案内 命令文（禁止）
14	復習とテスト	復習とテスト
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	観光外国語Ⅲ		
必修選択	選択	(学則表記)	観光外国語Ⅲ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	美しい韓国語 1-2初級コース			出版社	EKOランゲージセンター

科目の基礎情報②

授業のねらい	基礎韓国語を話せる、書ける、基礎会話が出来るようにする		
到達目標	ハングル検定5級合格		
評価基準	授業態度50%、テスト50%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	ハングル検定5級		
関連科目	観光外国語Ⅰ		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	金 鶴	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ 到達目標等について説明
2	美しい韓国語1-3 第1課 試験があって時間を作れないです	省略形 約束の調整をする 体調表現 (으)ㄴ수 있다/없다 を学ぶ
3	美しい韓国語1-3 第2課 構内食堂に行きましょう	食事に誘う時の表現を学ぶ
4	美しい韓国語1-3 第3課 ブルゴギと少し頼みましょうか	食事を注文する時の表現を学ぶ -(으)ㄴ 까요? 그러니까를学ぶ
5	美しい韓国語1-3 第4課 まだ仕事が終わってないです	待ち合わせ 아직 -지 맙시다を学ぶ
6	美しい韓国語1-3 第5課 忙しすぎて行けなかったです	できなかった理由の表現を学ぶ

7	美しい韓国語 1－3 第6課 先生変わって下さい	電話対応 (이)지요? 인데요を学ぶ
8	復習とテスト	復習とテスト
9	美しい韓国語 1－3 第7課 もうすぐ雨が降りそうです	天気① -지요? -겠을学ぶ
10	美しい韓国語 1－3 第8課 水泳が好きだけど、上手く泳げないです	天気② 季節 -지만 -지 못하다を学ぶ
11	美しい韓国語 1－3 第9課 済州島に行った事ありますか	経験を話す時の表現 아/어 보다. (으)ㄴ 데/는 데を学ぶ
12	美しい韓国語 1－3 第10課 私のお父さんの誕生日です	尊敬語を学ぶ
13	美しい韓国語 1－3 第11課 年配の方々は健康食品が好きだから、高麗人参をプレゼントしてください	お祝いに関する表現 -으니까 라고 말하다を学ぶ
14	復習とテスト	復習とテスト
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	リスクマネジメントⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	リスクマネジメントⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	世界一わかりやすい リスクマネジメント集中講座			出版社	ニュートン・コンサルティング株式会社

科目の基礎情報②

授業のねらい	リスクマネジメントの基礎を学び、企業におけるリスクマネジメント並びに、観光におけるリスクマネジメントへ転化させ、応用的に考え、今後の社会における観光危機管理に役立つ知識を身につける。		
到達目標	リスクマネジメントの基礎を理解し自己の生活において役立てることができる、また、沖縄における観光危機管理について課題をみつけ解決策を提案できる。		
評価基準	小テスト50%、授業態度 3 0 %、中間テスト 1 0 %、期末テスト 1 0 %		
認定条件	・ 出席が総時間数の 3 分の 2 以上ある者 ・ 成績評価が 2 以上の者		
関連資格	国内旅行業務取扱管理者資格		
関連科目	国内旅行業務取扱管理者資格		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	吉川 温子	実務経験	○
実務内容	県内旅行会社にて勤務経験。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	リスクマネジメントとは	身近な例に学ぶリスクマネジメント、危機管理とは
2	リスクマネジメントとは	BCPとは？
3	何にでも使えるリスクマネジメント	家庭のリスクマネジメント
		自分の実生活を踏まえてリスクマネジメントしてみる。
4	何にでも使えるリスクマネジメント	プロジェクトリスクマネジメント、本章のまとめ
5	企業におけるリスクマネジメント	実は無意識で行っているリスクマネジメント
6	企業におけるリスクマネジメント	ビジネスにおけるリスクマネジメント
7	企業におけるリスクマネジメント	NERMFとは？本章のまとめ

8	中小企業におけるリスクマネジメント	中小企業の課題（一発アウトに気をつける！、余計なことはしない）
9	中小企業におけるリスクマネジメント	ISOを有効活用／ISOとは？本章のまとめ
10	大企業におけるリスクマネジメント	規模が違ふと何が違ふ？
11	大企業におけるリスクマネジメント	全社的リスクマネジメント（ERM）とは？なぜ、ERMなのか
12	大企業におけるリスクマネジメント	日々、どのような業務をこなすのか？/本章のまとめ
13	企業におけるリスクマネジメントの実際	実は、リスクの種類によってマネジメントの方法を変えた方がよい
14	企業におけるリスクマネジメントの実際	実は、リスクの種類によってマネジメントの方法を変えた方がよい
15	有名企業におけるリスクマネジメントの実例	日産で行っているリスクマネジメント
16	有名企業におけるリスクマネジメントの実例	ヤフーで行っているリスクマネジメント
17	有名企業におけるリスクマネジメントの実例	JAFで行っているリスクマネジメント
18	リスクマネジメントの構築	何から手を付ける、何を参考にする、どのようなステップを踏む
19	リスクマネジメントの構築	何から手を付ける、何を参考にする、どのようなステップを踏む
20	リスクマネジメントの構築	誰を巻き込む、何に気をつける、本章のまとめ
21	なぜリスクマネジメントや危機管理が役に立たないのか—近年に起きた事故・不祥事の実例	近年に起きた事故・不祥事
22	なぜリスクマネジメントや危機管理が役に立たないのか—近年に起きた事故・不祥事の実例	なぜリスクマネジメントは機能しなかったのか？
23	なぜリスクマネジメントや危機管理が役に立たないのか—近年に起きた事故・不祥事の実例	活きたリスクマネジメントにするためには。本章のまとめ
24	なぜリスクマネジメントや危機管理が役に立たないのか—近年に起きた事故・不祥事の実例	活きたリスクマネジメントにするためには。本章のまとめ
25	普段の生活におけるリスクマネジメントについて	自分の普段の生活からリスクを考えその、不利益を最小限にするためのマネジメントについてグループで考える
26	観光におけるリスクについて	観光地・観光客目線での観光におけるリスクについて
27	観光地におけるリスクについて	観光地・観光客目線での観光におけるリスクについて
28	沖縄県や地域の観光危機管理について	南城市や那覇市の危機管理についての文書を読み解き理解する。
		地方での危機管理において重要なことは何か考える（GD）
29	これからの観光危機管理について	今後の社会の発展や観光の形態の変化を踏まえどのようなリスクマネジメントが必要になるかを考える。
		GDでそのリスクについて考え、課題を見つけ、解決策や予防策を提案する。
30	まとめ	これまでのFBとリスクマネジメントが以下に普通の生活と密着しているのかということを理解するとともに、企業だけではなく、観光産業においてもその必要性が高いということを理解しているか確認する。

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	マリン・フォレストガイドⅢ		
必修選択	選択	(学則表記)	マリン・フォレストガイドⅢ		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	PADI オープンウォーターダイバーマニュアル		出版社	PADI	

科目の基礎情報②

授業のねらい	自然体験活動を通じて問題解決力と伝達力・指導力を身につける		
到達目標	JCEA 野外活動コーチ合格		
評価基準	テスト：40％　小テスト：30％　提出物：30％		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格	JCEA 野外活動コーチ		
関連科目	マリンフォレストガイドⅠ（1年後期）		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	宮川　友宏（株式会社マレアクリエイト）	実務経験	○
実務内容	ダイビングショップ・インストラクターとして20年間の勤務 PADIオープンウォーター,PADIスクーバインストラクター,潜水士免許,PADIコースディレクター取得		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	体験学習と環境教育	体験学習にとっての自然、環境、社会、歴史について
2	聴く力のワークショップ	地域の自然や歴史を知る人へのインタビュー
3	環境・食育体験学習	海での漁師体験プログラムを体験する
4	漁業の歴史	漁業の種類と歴史、沖縄の海で見られる魚と獲れる魚を調べる
5	環境問題のワークショップ	身近な自然環境と環境問題について調べ、発表する
6	サンゴ礁の保全活動	サンゴ礁の生態と重要性について知り、サンゴの植え付け・苗作りを体験する
7	伝える力のワークショップ	インタープリテーションとは何か？大切にしているモノ・コトを伝える
8	参加者理解	参加者理解とコミュニケーション、相性診断のワークショップ

9	沖縄の自然と歴史	沖縄の自然と歴史、沖縄の森林で見られる熱帯性植物と固有生物を調べる
10	陸域での体験技術実習	五感を使ったインタープリテーションのアクティビティを経験する
11	野外宿泊と災害対策	宿泊を伴う体験学習と災害対策としてのキャンプについて
12	野外宿泊体験実習	基本的なロープワーク、テントとタープの設営、焚火の手順
13	チームビルディング	ファシリテーターとしてのチームビルディングと振り返りの手法
14	プログラムデザイン	ファシリテーターとしての課題解決アクティビティとプログラムデザイン
15	テスト	筆記テストの実施と振り返り。まとめ

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	サービス介助士		
必修選択	選択	(学則表記)	サービス介助士		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	サービス介助士資格取得講座テキスト			出版社	日本ケアフィット共育機構

科目の基礎情報②

授業のねらい	グランドスタッフとして必要なおもてなしの心と介護技術を学ぶ 日系航空会社で資格取得に取り組んでいる「サービス介助士」の資格取得を目指す				
到達目標	ご高齢の客様や介助の必要お客様に対して自信をもって接客できる 個々のお客様に合った接客サービスを考え提供することが出来る サービス介助士資格の取得				
評価基準	定期試験 40% 授業態度 30% 小テスト 30%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格	サービス介助士				
関連科目					
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	與那嶺 佳吾			実務経験	○
実務内容	県内にて児童デイサービスの運営、介護経験あり				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション 障がい者差別解消法	サービス介助論について、サービス介助士の必要性 超高齢化社会の現状 障がい者差別解消法について
2	ホスピタリティ・マインド	ホスピタリティの語源とホスピタリティについて ホスピタリティ体験についてディスカッション
3	ノーマライゼーション	ノーマライゼーションについて 障がいの種類について 事前課題の取り組み
4	高齢者の理解と介助	高齢者の身体的特徴やかかりやすい病気・特徴的な病気 事前課題の取り組み
5	ジェントロジー	ジェントロジーとは 将来について考察 事前課題への取り組み
6	接遇	サービス介助士としての接遇 事前課題の取り組み
7	障がい者への理解と介助 (車いす使用者)	車椅子使用者への理解と介助方法 車いすの種類と操作上の注意点 事前課題への取り組み
8	障がい者への理解と介助 (視覚障がい者)	視覚障がい者への理解と誘導方法 点字や指文字 事前課題への取り組み

9	障がい者への理解と介助 (聴覚障がい者)	聴覚障がい者への理解 聴覚障がい者とのコミュニケーション方法 事前課題への取り組み
10	障がい者への理解と介助 (知的障がい者・精神障がい者)	知的障がい・精神障害の定義と概要 知的障がい者・精神障がい者への介助方法 事前課題への取り組み
11	身体障がい者補助犬	身体障がい者補助犬についての理解と身体障がい者補助犬法 身体障がい者補助犬使用者への介助方法 事前課題への取り組み
12	ユニバーサルデザイン	バリアフリーデザインとユニバーサルデザイン 身の回りにあるユニバーサルデザイン 事前課題への取り組み
13	試験	テストを実施
14	事前課題学習	事前課題の返却と復習 定期テストの返却・解答解説 事前課題の復讐を兼ねた小テスト
15	総括	総括 実技講習に向けて

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	エアポート英会話A		
必修選択	選択	(学則表記)	エアポート英会話A		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	飛行機・空港の英会話			出版社	NOVAホールディングス株式会社

科目の基礎情報②

授業のねらい	グランドスタッフとして接客に必要なビジネス英会話ができるようになる。		
到達目標	グランドスタッフとして接客に必要なビジネス英会話ができるようになる。		
評価基準	実技テスト：40％　筆記テスト：30％　授業態度：30%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格			
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	金　鶴	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	基礎知識①	お金の数字・通貨・時間の表現について
3	基礎知識②	看板・パスポートの見方について
4	基礎知識③	空港内の設備について
5	出国時①	フライトの情報の確認について1
6	出国時②	フライトの情報の確認について2
7	出国時③	チケットの手配について
8	出国時④	チェックインカウンターについて

9	出国時⑤	手荷物検査・セキュリティチェックについて
10	出庫時⑥	空港アナウンスについて①
11	出国時⑦	空港アナウンスについて②
12	出国時⑧	トラブル発生時の対応
13	出国時⑨	免税店について
14	テスト	テストを実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	講義	科目名	エアポート英会話B		
必修選択	選択	(学則表記)	エアポート英会話B		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	2	30
使用教材	飛行機・空港の英会話			出版社	NOVAホールディングス株式会社

科目の基礎情報②

授業のねらい	グランドスタッフとして働く上で外国のお客様に対応できる英語力を身に付ける。		
到達目標	グランドスタッフとして接客に必要なビジネス英会話ができるようになる。		
評価基準	実技テスト：40％　筆記テスト：30％　授業態度：30%		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格			
関連科目			
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	金　鶴	実務経験	
実務内容			

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	飛行機内①	席・機内アナウンスについて
3	飛行機内②	機内アナウンスについて②
4	飛行機内③	飲み物・機内食について
5	飛行機内④	入国・出国書類について
6	飛行機内⑤	具合が悪い人の対応について
7	飛行機内⑥	緊急時の対応について
8	入国時①	乗り継ぎについて

9	入国時②	入国審査について
10	入国時③	荷物受け取りについて
11	入国時④	税関申告について
12	入国時⑤	両替について
13	入国時⑥	タクシー・交通機関について
14	テスト	テストを実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	空港カウンター演習ⅡA		
必修選択	選択	(学則表記)	空港カウンター演習ⅡA		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	ANA グランドスタッフ入門 最新版			出版社	イカロス出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	グランドスタッフとして一人一人のお客様に対応できる応用力を身に付ける				
到達目標	応用力を身に付け、様々な状況において対応できるようになる				
評価基準	実技テスト：40% 小テスト：20% 提出物：20% 意欲・態度：20%				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	エアライン業界総合ⅡA				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	幸喜 若菜			実務経験	○
実務内容	航空会社CAとして勤務経験。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	カウンター業務・応用①	UMNRへの対応
3	カウンター業務・応用②	乗り継ぎのあるお客様への対応
4	カウンター業務・応用③	超過手荷物の対応
5	カウンター業務・応用④	ペット受託
6	アナウンス実習①	アナウンス実習
7	アナウンス実習②	アナウンス実習
8	到着業務・応用①	到着時のイレギュラー対応

9	到着業務・応用②	到着時のイレギュラー対応
10	アナウンス実習③	到着時のアナウンス
11	アナウンス実習④	到着時のアナウンス
12	ケーススタディ①	様々な背景を想定したケーススタディを実践する
13	ケーススタディ②	様々な背景を想定したケーススタディを実践する
14	まとめ	総まとめ
15	実技テスト	実技テスト実施

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	空港カウンター演習ⅡB		
必修選択	選択	(学則表記)	空港カウンター演習ⅡB		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	ANA グランドスタッフ入門 最新版			出版社	イカロス出版

科目の基礎情報②

授業のねらい	グランドスタッフとして一人一人のお客様に対応できる応用力を身に付ける				
到達目標	応用力を身に付け、様々な状況において対応できるようになる				
評価基準	実技テスト：40％ 小テスト：20％ 提出物：20％ 意欲・態度：20％				
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目	エアライン業界総合Ⅱ				
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する				
担当教員	幸喜 若菜			実務経験	○
実務内容	航空会社CAとして勤務経験。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	特別旅客への対応①	特別旅客について
3	特別旅客への対応②	車椅子をご使用のお客様への対応
4	特別旅客への対応③	目の不自由なお客様への対応
5	特別旅客への対応④	耳のご不自由なお客様への対応
6	特別旅客への対応⑤	お子様連れのお客様への対応
7	イレギュラー時の対応①	イレギュラー時の対応を学ぶ
8	イレギュラー時の対応②	イレギュラー時の対応を学ぶ

9	アナウンス実習③	イレギュラー時のアナウンス
10	アナウンス実習④	イレギュラー時のアナウンス
11	アナウンス実習⑤	イレギュラー時のアナウンス
12	ケーススタディ③	様々な背景を想定したケーススタディを実践する
13	ケーススタディ④	様々な背景を想定したケーススタディを実践する
14	実技テスト	実技テスト実施
15	演習総まとめ	テストの振り返りと後期の総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	エアライン業界総合ⅡA		
必修選択	選択	(学則表記)	エアライン業界総合ⅡA		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	エアライン・ビジネス入門 第2版 講師作成資料			出版社	晃洋書房

科目の基礎情報②

授業のねらい	海外の主要な航空会社と空港のレターコードなどエアライン業務の基礎知識と空港業務の他職種についての基礎知識を習得する。		
到達目標	海外の主要空港と航空会社の2レター、3レターを覚えている。エアライン業務の基礎知識と空港業務の他職種の業務内容について理解し説明することができる		
評価基準	テスト：30％　小テスト：20％　提出物：20％　（意欲・態度　30％）		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格			
関連科目	空港カウンター演習ⅡA		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	幸喜　若菜	実務経験	○
実務内容	航空会社CAとして勤務経験。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション	授業の流れ、到達目標について
2	航空会社の経営計画	航空会社の経営計画とコードシェア、アライアンスについて学ぶ
3	海外のエアライン	海外の主要な航空会社の2レター、3レターについて学ぶ
4	航空会社の商品	航空会社の商品特性
5	海外の空港①	海外の主要な空港の3レターについて学ぶ

6	海外の空港②	海外の主要な空港の3レターについて学ぶ
7	イレギュラーハンドリング	イレギュラーの種類と会社都合、不可抗力について学ぶ
8	運送約款	国内運送約款と国際運送約款について学ぶ
9	クレーム対応	クレームについての理解を深め、対応のポイントを学ぶ
10	航空貨物輸送	航空貨物輸送の特徴と業務の概要について学ぶ
11	客室におけるサービス	客室乗務員の業務内容について学ぶ
12	運航乗務員	運航乗務員（パイロット）の業務内容について学ぶ
13	航空機整備	エアライン整備の概要及び整備の基礎について学ぶ
14	テスト	テストを実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	エアライン業界総合ⅡB		
必修選択	選択	(学則表記)	エアライン業界総合ⅡB		
開講				単位数	時間数
年次	2年	学科	リゾート観光・ホテルエアライン科	1	30
使用教材	エアライン・ビジネス入門 第2版 講師作成資料			出版社	晃洋書房

科目の基礎情報②

授業のねらい	航空機の機種やメカニズムについての知識を習得する。また、航空輸送の安全と航空保安について学び、安全の重要性を理解し、安全に対する高い意識を醸成する。		
到達目標	航空機の機種やメカニズムを理解し説明することができる。過去の事例から安全の重要性を理解し、高い意識を持つことができる。		
評価基準	テスト：30％　小テスト：20％　提出物：20％（意欲・態度　30％）		
認定条件	・出席が総時間数の3分の2以上ある者 ・成績評価が2以上の者		
関連資格			
関連科目	空港カウンター演習ⅡB		
備考	原則、この科目は対面授業形式にて実施する		
担当教員	幸喜　若菜	実務経験	○
実務内容	航空会社CAとして勤務経験。		

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	オリエンテーション /航空業界の最近の話題	航空業界の最近の話題について学ぶ
2	航空機の基本構造①	航空機の基本構造と仕組みについて学ぶ
3	航空機の基本構造②	航空機の基本構造と仕組みについて学ぶ
4	飛行のメカニズム	飛行の原理について学ぶ
5	航空気象	離着陸に及ぼす気象条件について学ぶ

6	航空会社の安全管理	「安全」及び安全管理について学ぶ
7	航空輸送の安全①	航空輸送の安全について学ぶ
8	航空輸送の安全②	JL123便の事故について学ぶ
9	航空保安①	保安対策基準の脅威レベルについて学ぶ 空港のセキュリティ対策について学ぶ
10	航空保安②	アメリカ同時多発テロ事件について学ぶ
11	航空保安③	全日空ハイジャック事件について学ぶ
12	エアライン業界の今後	エアライン業界の今後について学ぶ
13	各単元振り返り	各単元のまとめ、振り返りを行う。
14	テスト	テストを実施する
15	総まとめ	テストの振り返りと総まとめを行う

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	インターンシップⅡ		
必修選択	選択	(学則表記)	インターンシップⅡ		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	60
使用教材	なし			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、実践力を養うとともに、現場・社会に触れることで、求められる人物像やスキル、社会を学ぶ				
到達目標	実習先で求められるものに応える過程で自身の強みや課題を理解することができる 課題を自ら見つけ、チャレンジを通して克服することができる 組織の一員として現場で求められるスキルを理解することができる				
評価基準	実習評価：50% 学校評価：50%（実習手帳評価）				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	※評価基準は学外実習規定に準ずる				
担当教員	吉川 温子			実務経験	○
実務内容	県内旅行会社にて勤務経験。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	企業研究	希望職種、過去実績を基に実習企業を調べる
2	実習先の決定	企業側の承諾をもって決定
3	事前ガイダンス	実習活動中の留意点の確認、実習手帳の使用についての説明 企業、実習生間により事前打合せの指示
4	実習	1日の実習時間の最大は8時間（休憩時間を含めず）とし、原則22時まで

シラバス

科目の基礎情報①

授業形態	演習	科目名	インターンシップⅢ		
必修選択	選択	(学則表記)	インターンシップⅢ		
開講				単位数	時間数
年次	2年次	学科	リゾート観光ホテルエアライン科	2	60
使用教材	なし			出版社	なし

科目の基礎情報②

授業のねらい	授業で学んだ知識や技術をアウトプットし、実践力を養うとともに、現場・社会に触れることで、求められる人物像やスキル、社会を学ぶ				
到達目標	実習先で求められるものに応える過程で自身の強みや課題を理解することができる 課題を自ら見つけ、チャレンジを通して克服することができる 組織の一員として現場で求められるスキルを理解することができる				
評価基準	実習評価：５０％ 学校評価：５０％（実習手帳評価）				
認定条件	出席が総時間数の3分の2以上ある者 成績評価が2以上の者				
関連資格					
関連科目					
備考	※評価基準は学外実習規定に準ずる				
担当教員	吉川 温子			実務経験	○
実務内容	県内旅行会社にて勤務経験。				

習熟状況等により授業の展開が変わることがあります

各回の展開

回数	単元	内容
1	企業研究	希望職種、過去実績を基に実習企業を調べる
2	実習先の決定	企業側の承諾をもって決定
3	事前ガイダンス	実習活動中の留意点の確認、実習手帳の使用についての説明 企業、実習生間により事前打合せの指示
4	実習	1日の実習時間の最大は8時間（休憩時間を含めず）とし、原則22時まで